

乙 第 号

中村 孝人 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

論文審査担当者	委員長	教授	谷口 繁樹
	委員	教授	伊藤 利洋
	委員(指導教員)	教授	室 繁郎

主論文

Desaturation during the stair-climbing test for patients who will undergo pulmonary resection: an indicator of postoperative complications

階段昇降試験中に認められる酸素飽和度低下

-肺切除を予定している患者の術後合併症の予測指標-

Takahito Nakamura, Noriyoshi Sawabata, Yoshiyuki Susaki, Shigeo Muro

General Thoracic and Cardiovascular Surgery 2020 Jan;68(1):49-56

論文審査の要旨

本研究は、肺切除術における術後合併症予測因子として、階段昇降による運動負荷中の酸素飽和度低下の意義を検討した研究である。対象は従来から低リスクと評価された集団であったが、酸素飽和度低下が認められた場合、低リスクであっても周術期合併症、酸素投与期間、入院期間において負の予測因子として作用した。耐術能を評価する指標は多岐にわたるが、階段昇降中の酸素飽和度測定は比較的簡便であり汎用性も大きい。呼吸器外科術後回復においては心臓、肺、血管、筋肉の作用連関が大きく関わっており、術前にこれらの臓器の相互連関が円滑に動くことを評価できるかが重要である。審査委員からはこの点を意識した複数の質問がなされたが、申請者もその重要性を十分認識しておりそれらの少なくとも四臓器の相互作用が円滑でないことの一つの結果が酸素飽和度の低下であること、そしてそれは比較的簡便に測定できることを強調した。今後の展望として、さらに研究を重ねることで、本指標が肺切除の程度（葉切除、区域切除）を安全に決定しうるかについての検証を期待したい。公聴会ではしっかりとした質疑応答がなされ、本研究は博士（医学）の学位に値する研究であると評価する。

参 考 論 文

1. Cluster circulating tumor cells in surgical cases of lung cancer
Sawabata N, Susaki Y, Nakamura T, Kawaguchi T, Yasukawa M, Taniguchi S
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Feb 10. doi: 10.1007/s11748-020-01308-3
[Epub ahead of print]
2. Effect of cardiac expansion on postsurgical pulmonary resection recovery
Tamura Y, Sawabata N, Susaki Y, Nakamura T, Taniguchi S
In Vivo. 2019 Nov-Dec;33(6):1977-1984
3. Effects of noninvasive ventilation on the coordination between breathing and swallowing in patients with chronic obstructive pulmonary disease
Hori R, Ishida R, Isaka M, Nakamura T, Oku Y
Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2019 Jul 8;14:1485-1494
4. Over-the-counter drug-induced lung injuries with both diffuse alveolar hemorrhage and diffuse alveolar damage
Nakamura T, Watari T, Tokuda Y
BMJ Case Rep. 2018 Sep 23;2018. pii: bcr-2018-226626

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに呼吸器・血液病態制御医学の
進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年6月9日

学位審査委員長

循環・呼吸機能制御医学

教授 谷口 繁樹

学位審査委員

免疫学

教授 伊藤 利洋

学位審査委員(指導教員)

呼吸器・血液病態制御医学

教授 室 繁郎